

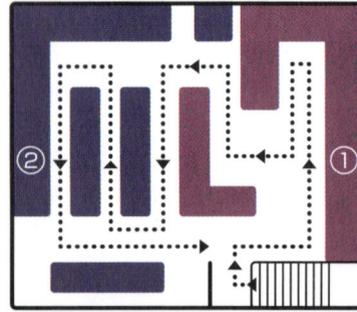


# 菅公歴史館

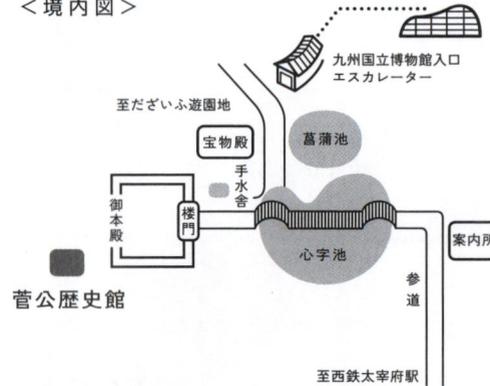
## 拝観順路・境内図

<拝観順路>

- 1 天神さまの物語  
装着博多人形でつづる菅原道真公のご生涯
- 2 全国の天神人形



<境内図>



### 交通手段

- 西鉄太宰府駅から徒歩5分、福岡市内から車で40分
- 福岡空港から車で30分
- JR二日市駅から車で15分

### 開館時間

- 午前9時～午後4時半(入館は午後4時まで)
- 休館日:火曜日・水曜日

### 拝観料

入館者	料金	団体(30名以上)
一般	200円	150円
高・大生	150円	75円
小・中生	100円	50円

宝物殿へもご来館ください。

【太宰府天満宮】

〒818-0195 福岡県太宰府市宰府4丁目7-1  
TEL 092-922-8225

菅公歴史館には、菅原道真公(天神さま)の

ご生涯をつづったジオラマと、人々が様々な願い

とともに奉納したり、願いが叶ったお札に納めた

人形、玩具、絵馬等の宝物が展示されています。

そのなかでも日本各地の天神人形は庶民生活

に根付いた天神信仰の証ともいえます。



## 天神人形

今日の郷土人形のルーツは、日本各地の神社・寺院の門前で売られていた土産品にあります。室町時代ごろ、京都の伏見稻荷に参詣した人が、京都深草でつくった土人形を土産品として買ってかえたのがその始まりです。江戸時代になると、それが各地でもつくられるようになり、素材も土以外に、木製のものや紙を重ねはって形をつくる張子のものなども登場しました。それらの人形は信仰の対象となるもの、子供の遊びに使われるもの等さまざまですが、どの地方においても最も多くつくられたのが天神人形です。天神さまは人形というかたちで庶民の間に広まり、そのため人々は天神さまを身近で親しみ深い神さまとして、厚く信仰しました。

# 天神さまの物語

## 装着博多人形でつづる 菅原道真公(管公)のご生涯

当館では、道真公のご生涯が、装着博多人形(博多人形に衣装をさせたもの)の16の場面でつづられており、それらのエピソードは道真公の生前のお人柄を語っています。また、装着博多人形とは今は制作されてない博多人形の古い手法で、これは置鮎琢磨氏、西頭哲三郎氏が制作にあたりました。

### 1. 梅の花の歌

嘉祥2年(849年) 5歳

うつくしや  
紅の色なる梅の花  
あこが顔にも  
つけたくぞある

学者の家にお生まれになった菅公は、幼い頃から学問に励まれました。5歳で和歌を、11歳で漢詩を詠まれ、その才能をおしになり、御両親を喜ばせられました。

### 2. お母様の祈り

貞観元年(859年) 15歳

久方の  
月の桂も折るばかり  
家の風をも  
吹かせてしがな

これは菅公が元服を迎えられた時、母君が贈られた歌です。信心深い母君は、菅公の健やかな成長を願っていた人々は、菅公の音様に祈られました。その期待どおり、菅公は立派に成長なさいました。

### 3. 文武の達人

貞観12年(870年) 26歳

菅公は学問のかたわら、体を鍛え武道の腕もみがされました。都良香の家で催された弓遊びの会に出場された菅公は、人々の前で百発百中の腕前をお示しになりました。学問しかできないだろうと考えていた人々は、菅公の文武両道の才能にたいへん驚きました。

### 4. 文章博士

元慶元年(877年) 33歳

菅公は18歳の若さで文章の試験に合格され、33歳で文章博士(中国の歴史や文学、作文の方法などを教える先生)となりました。父君が亡くなった後、「菅家廊下」と呼ばれる学問所も継がれ、「和魂漢才」の精神で多くの優秀な学生を育てられました。

### 5. 名外交官

元慶7年(883年) 39歳

裴通という大使が渤海から贈り物を持って来た時、菅公は接待役(存問渤海客使)を命じられました。饗宴の席で菅公は即席で詩を作られ、その詩をきいた裴大使は「白楽天(唐代を代表する著名な詩人)と似ている」といって褒め称えました。菅公は接待の大役をりっぱに果たされたのです。

### 6. 情深い政治家

仁和2年(886年) 42歳

菅公は讃岐守として四国へ赴かれました。領民を思いやり、飢饉の年には、いちはやく米倉を開いて人々に与え、日照りの年には自ら雨乞いを行うなどのすばらしい政治を行われたので、人々にたいへん慕われました。この時期を機に、菅公はますます情緒に溢れた詩歌を詠まれるようになりました。

### 7. 紅葉のにしき

昌泰元年(898年) 54歳

このたびはぬさもりあへずたむけ山紅葉の錦  
神のまにまに  
菅公は宇多天皇の信任が厚く、天皇の御幸のお供も命じられました。奈良山を通過して、東大寺向山八幡宮へ参られた時、山の紅葉を詠まれたのが百人一首にもみえるこの歌です。



### 8. 恩賜の御衣

昌泰3年(900年) 56歳

九月の重傷の節句に、宮中で菊を飾って詩会が行われます。この席で、醍醐天皇は参宴者に「秋思」という題で詩を詠むように命じられました。菅公が天皇の御恩への感謝の気持ちで、御褒美として菅公に御衣を下さいました。

### 9. 流され人

延喜元年(901年) 57歳

流れゆく  
われは水屑となりはてぬ  
君しがらみと  
なりてとどめよ

菅公は位をのぼられて右大臣となりました。これをねたんだ藤原時平が醍醐天皇にうその告げ口をしたため、菅公は無実の罪で大宰府へ左遷されることになりました。

### 10. 紅梅殿の別れ

延喜元年(901年) 57歳

こちふかば  
にほひおこせよ梅の花  
あるじなして  
春な忘れそ

菅公は別れ別れになる御家族と紅梅殿で名残を惜しまれました。かわいがっていた庭の梅にも別れを告げられました。この後、菅公を慕って大宰府へ一夜のうちに飛来したのが「飛梅」です。

### 11. 都をあとに

延喜元年(901年) 57歳

君がすむ  
宿の梢をゆくゆくも  
かくるまでは  
かへり見しはや

菅公は流れ人として、護送の役人に守られて旅立たれました。沿道で見送る人々はお別れをいうことができず、木陰からそっと別れを惜しんで涙を流しました。

### 12. 道明寺の別れ

延喜元年(901年) 57歳

西下の途中、河内の国府・道明寺に住むおばさまに別れを告げられました。お二人は一晚中語りあかしましたが、意地の悪い役人が鶏をわざと早く鳴かせましたので、菅公はあわてて出発さならなければなりませんでした。

### 13. 博多に上陸

延喜元年(901年) 57歳

幼い隈麿、紅姫の二人のおこさまをつれた門弟味酒安行も菅公と合流し、ともに博多の港に着きました。菅公は長い旅の疲れと失意で、みすぼらしいお姿でした。浜辺の漁師は、舟のとも綱をまいて、菅公に座って休んでいただきました。さらに、菅公は水に姿を映してみなりを整えられたといひます。

### 14. 去年の今夜

延喜2年(902年) 58歳

大宰府での生活は辛く、苦しいもので、隈麿さまも病気で亡くなってしまいました。菅公は、都の天皇様や奥さまのことを思い出されぬ日はないほどでした。九月十日の夜、菅公は去年宮中でいただいた御衣を取り出し、天皇様をお慕いし、都を懐かしむ詩を詠まれました。

### 15. 天拝山の祈り

延喜2年(902年) 58歳

菅公は人も天も恨まれることなく、謹慎の毎日をおくられました。ある時、大宰府の南、天拝山に登られ、御自分の無実と、国家の繁栄を一心にお祈りになりました。その祈りは天に届き、神様より「天満大目在天神」の神号を与えられました。

### 16. 安楽寺

延喜3年(903年) 59歳

大宰府の貧しい生活で、御病気になられた菅公は、都に帰ることもできないまま、配所の南館(現 櫻社)でおなくなりになりました。門弟の味酒安行は、菅公のなきがらを乗せた牛車が動かなくなった地に菅公を葬りました。それが、現在の太宰府天満宮の御本殿の場所です。